

県連ニュース

2023年1月 NO-546号



『綿向山にて』

滋賀県勤労者山岳連盟

2023年1月号 目次

- ・滋賀県勤労者山岳連盟会長新年挨拶
- ・全国労山より・・・積雪期登山の事故防止を
- ・山の会オフトレイルの紹介

【案内】

交流山行案内・愛宕山

【報告】

全国登山学校交流会報告

ステップアップ比良山行報告・滝谷の頭（黒谷～畑周回尾根コース）

放射線測定山行報告と測定結果

【行事予定】

行事予定1月～3月

表紙の写真：2022.1.2 綿向山の樹氷 比良雪稜会 藤野健太郎撮影

新年のご挨拶

会長 友永芳和

2022年は皆さまにとってどんな年だったのでしょうか。相変わらずコロナが蔓延したのに加えて、2月にはロシアによるウクライナ侵攻により、大きく世界が動いた年でもあります。また、その事が物価高や政情不安を引き起こし、私たちの生活にも大きな影響を与えました。一見私たちにはまったく関係のない所で起こった事でも、世界は良くも悪くもつながっている事を知らされた1年でもあったと思います。同時に平和である事がどんなに大切な事かを考えさせられた1年でもあったと思います。

私自身の事を言いますと、6月に大事には至りませんでした。転倒事故を起こしました。よく安全登山と言いますが、登山に絶対の安全などあるはずがない事を思い知らされました。ある意味、山には危険があるからこそ、それを技術や知識の向上とともに、細心の注意を払いながら、大胆な判断力を養って乗り越えていく事に楽しみや魅力があるのだと思います。まさに矛と盾ですネ。山は危険がいっぱいなのです。

2023年はどんな年になるのでしょうか。みなさんはどんな年にしたいと思っていますか？どんな目標を立てていますか？なにかの本で読んだのですが、大きな目標だけを立てると、達成できなかった時には失望感が大きくなってしまおうそうです。大きな目標を立てる事も大事だけど、まず目先のすぐに達成できそうな小さな目標を立てて、それを一つ一つ達成していくことで、充実感を味わうことができます。それを少しずつ繰り返していくことが大きな目標に近づいていくことにもなるのだそうです。まさに千里の道も一歩からですネ。

私の今年の目標は何だろう。おだやかに迎えの来るのを待つ！・・・嘘ですヨ。

膝の痛みが酷くなり山にはまともに登れませんが、膝と相談しつつ山の中をポチポチ歩きながら、空を見上げ、雲の流れを見ながら、名も知らぬ鳥の声を聞き、名も知らぬ花を眺め、人間の命に比べれば悠久の命を持つ木々の言葉を聞きながら、夜には月や星を眺めて盃を傾けながら1年を送りたいと思っています。これって目標とは言えませんネ。

皆さんも目標を立てて、これからの1年365日を充実した日々が送れるように願っています。

さて県連の1年の活動ですが、清掃登山や登山祭典などの恒例行事とともに、登山教室をさらに充実したものにしていければと思っています。出来ればクライミングの技術アップのための講習会も開ければと思います。

また数は力と言います。たくさんの会員を迎え入れて、滋賀県連をもっともっと充実した活動ができる連盟にして行ければと思います。

何をするにしても皆さんの力が必要です。様々な行事・活動に大きな力をお貸しください。よろしく願います。最後になりますが、皆様にとっても、皆様の会にとっても良い1年でありますように！

年末年始の積雪期登山事故と転倒事故防止について

2022年12月15日

日本勤労者山岳連盟
遭難対策部

2022年に入り1月・2月の二か月で4名が亡くなり12月15日現在、登攀や沢登りを含めて7名の死亡事故が発生した。またハイキングや縦走では、転倒事故が多発しその殆どが骨折を伴う事故に繋がっている。今年の事故者数は、12月5日現在コロナ以前の300人を超過し歴代のワースト記録に迫っている。年末年始の積雪期登山、ハイキング、縦走登山での事故防止に努めるようお願いしたい。

今年1月から積雪期登山の事故が多発している。遭難対策部での検証の結果、総合的な力量不足を重大視している。パーティー内での個人の体力や力量を把握できないうえに技術的なミスが重なり、さらに天候判断を誤り危険回避する行動が選択できたにもかかわらず、安全策を取らずに進んでしまった事が残念な結果に繋がった事故が多い。年末年始の積雪期登山では、慎重な判断のもと無理な行動を避け、余裕のある計画を作成し安全登山を心掛けていただきたい。また登山中に心筋梗塞を起こしたことによる死亡事故も発生している。心疾患がある会員はより慎重な計画を用意し、同行者に疾患の内容を知らせるよう努めていただきたい。

それぞれの事例では、下記の事項が教訓として報告された。

- ・積雪期登山の体力と判断力/各自の体力や知識の不足
- ・山行計画の行動時間/ルート上の積雪状況判断が不適切
- ・悪天予報を認識していない行動/天候の変化に対応できない
- ・天候悪化による道迷い
- ・ピバーク用装備の不携帯/装備の確認が不十分
- ・積雪期登山の技術不足
- ・日頃からの体調管理ができていない
- ・ネットでの情報を安易に利用する

上記の内容を十分に考慮し登山を行っていただきたい。新型コロナ規制緩和や全国旅行支援による社会活動の活発化にともない、登山回数も増加している状況ではあるが、高齢による基礎体力の低下、日常生活での運動不足も転倒事故の一因に繋がっていると考えられる。特に下山中の転倒事故が多発している。わずかな転倒が重大事故につながる報告も多いことから、これを防止するためにも、下山時にはより慎重な行動を互いに確認し、滑る場所の確認を怠らず木の根や倒木に躓かない歩行に徹する、滑りやすい岩や浮石には特に注意を向けるなど、転倒事故を防ぐ登山を実施してほしい。

・・・滋賀労山会員の皆様へ・・・

滋賀労山に、新しい会が生まれました

(旧彷徨倶楽部から新しく生まれ変わりました)

“山の会 オフトレイル”

(OFFTRAIL)

現在メンバー8名の小さなグループ 故に楽しいことがあります
私たちは 山が好きな人を歓迎します
山仲間をお待ちしています

山の会 オフトレイル 代表 信森 徹



“我慢して生きるほど
人生は長くない”と
人は言います
今を楽しみましょう



2023年 1月号

交流登山

- ◎「交流登山」とは・・・県連の各会の枠を超えて、他の会の会員と楽しく交流を深めながら山行に参加できるシステムです。（但し、この指定された山行のみとなります）
- ◎「参加申込み方法」・・・行ってみたい山行の申込先へメールで申し込むだけです。
申込みは⇒「所属会名・氏名・住所・生年月日・ケータイ番号・血液型」が必要です（登山計画書所定項目）

登山日程	2023年1月22日(日)	企画会名	ちごゆり山歩会
山域・山岳名	愛宕山（あたごやま・標高 924m・京都市右京区）		
集合場所・時間	JR 嵯峨嵐山駅（トロッコ側ロータリー付近） 午前8時40分		
山行時間	約6時間		
参加受付	ちごゆり山歩会 濱本 健二	メール ケータイ	tanmore@maia.eonet.ne.jp 090-3929-3869
受付締切	1月8日(日)まで ※下記の申込み者情報を厳守願います		

※**申込時の注意**—申込は必ず**メール**で願います（内容の問い合わせは、ケータイでも結構です）

① 所属会名 ② 氏名 ③ 住所 ④ 生年月日 ⑤ 携帯番号 ⑥ 血液型

※申込者の情報は、登山計画書の作成に必要となりますので、間違いのないよう願います。

◇コース詳細

JR 嵯峨嵐山駅 → （京都バス）野々宮バス停 → 清滝バス停 →
（表参道） → 荒神峠 → JR 保津峡駅



「労山登山学校交流会」報告

谷内資康(山の会オフトレイル)

日時：2022年11月19日(土)～20日(日) 大原温泉民宿 大原山荘

参加者 15名(東京1 愛知2 京都5 滋賀1 大阪2 兵庫3 岡山1)

スタッフ8名(千葉1 東京3 神奈川1 大阪1 岡山1 広島1) 合計23名

日程：13時～17時 大原温泉会議室

13時～13:40 全国連盟あいさつ・役員スタッフ紹介・参加者自己紹介

13:40～14:10 柳川遭難対策部員(大阪 山の会 TENSION)「元気に山に行くために」

団塊の世代が70歳台となりどンドン山(山岳会)から退会が出てきている。団塊の世代が少しでも長く山を続けられるように取り組むことが必要。また、団塊ジュニアの40歳台後半から50歳台をターゲットに労山会員を増やしたい。年齢を長く引き伸ばせるよう山筋ゴーゴー体操の普及にも取り組んでいる。ハイキングA・B・Cも改訂されたので県連単位等で購入し活用してほしい。登山ガイドからのアドバイスも入れて充実した内容になっている。

14:10～17:00 各連盟実施の登山学校および講習会の紹介と情報交換

兵庫(門協理事長 神戸クライマーズクラブ)

2004年に不動岩で死亡事故があり中級登山学校を中断していたが2009年に「中級登山学校・夏」と改め再出発。2011年「初級登山学校」2013年「冬山登山学校」を開校。中級は雪彦山のルートが

リードできる登攀技術取得、初級は夏山岩稜縦走リーダーが目標。「冬山」は2014年1月に後立山で凍傷事故が発生し、現在まで再開されていない。兵庫県連の事故件数は全国ワースト2でコロナ下においても2021年はハイキングの事故が増えている。会員平均年齢は66.6歳と大阪の61.5歳、東京の62.3歳と比べて高い。会員数も2014年の2200名達成後、2021年末は約1900まで減少している。毎年50名近く減っている状況。70代後半から登山を離れる傾向があり、減少対策とリーダー養成が最重要課題。

長く登山に親しんでもらえるよう「登高能力テスト」「筋トレ講習」を実施している。

「登高」は芦屋川から六甲山頂まで時間測定。参加50人完登47人(61～77歳)

標準タイム3時間で男性は最短2H08M、最長4H12M、平均3H02M

女性は最短2H26M、最長4H33M、平均3H20M ※30%は低山でも心許ない体力

「筋トレ」半年で5回実施 自宅トレ→実施後パソコン報告

効果：反射神経の活性化、乳酸がたまって余り疲れずに歩ける。

大阪(大見事務局長 アウトドアオールラウンダーズ)大阪労山の登山学校

基本体系はハイキングセミナー(入門 夏 冬)組織部主管(組織拡大)

初級登山学校(夏 冬)中級登山学校(夏 受講料45000円)教育遭難対策部主管

ハイキングセミナーでスタッフとしてレベルアップ→新たな会結成

初級登山学校→中級(クライミング)→救助隊

受講生は原則翌年のスタッフとして活動し、その中から講師を選んでいる。

その他「山の教室（座学）」「岩登り体験教室」「女性のための登山教室」
「手話で学ぶ登山入門」「子どもの冒険学校」を実施。

滋賀（谷内）初級登山教室実施要項と日程および実技の状況を報告。

受講生5人スタッフ5人と少人数。地図読みからテント泊、レスキュー、沢・岩登り、雪山入門と広く浅く実施。天候に恵まれて実技は雪山を残して実施済、特にクライミングではスタッフが少なく受講生1名に対してスタッフ2名といった体制がとれていない。各会では系統的な登山教育が難しいので今年から県連で約5年ぶりに実施している。

愛知（岩田 登山学校コーチ じねんじょ山の会）

マウンテニアリングコースとクライミングコースがあり4月～9月実施。今年はクライミングコースのみ実施。実技は鈴鹿御在所岳を中心に実施。受講料 33000 円
実技のテント泊でコロナ陽性者が発生した。

東京（今西 初級岩登学校責任者 大田山の会）

東京登山学校 3月～6月実施 実技は室内壁・丹沢・湯河原・三ッ峠 座学は山のケガ（外部講師 野口いずみ）救急法など。参加費用：会員 60000 円 一般 70000 円 学生 45000 円
「ハイキングリーダーコース」「ワンポイント講座」3回実施 参加費各 1000 円

京都（坪山 理事長 京都明峯勤労者山岳会）

登山学校の目的：レベルの維持と平準化

初級登山学校 10月～翌年8月実施 受講料 35000 円 講師養成は 15000 円
近畿ブロックの雪崩講習会と搬出訓練に要参加。実技 17 回 座学 7 回
他に「気象勉強会」「女性のための山登り講座」「冬山勉強会」「これからはじめるみんなの登山教室」を実施。

【感想その他】

各連盟では会員に限らず一般登山者にも呼びかけている。講師の確保とスタッフの交通費や日当が受講料と対策基金の費用でおさまるかが問題となっている。教育は組織の根幹に関わるのでこの連盟も力を注いでいる。滋賀に限らず会の高齢化で新しい人（特に若い登山者）を受け入れて教育をすることが会単位では困難になっている。また、他の連盟では実施内容に見合った受講料を徴収しており費用面での検討も必要と思われた。担当者は会員や登山者の要求に見合う内容とスタッフ

の確保および負担軽減を行うため、企画の見直しを行っている。（開催期間の短縮や半期ごとの交代制など）滋賀県連でも実施内容を含めた検討が必要と思われる。

翌日は朝から雨となり、朝食後解散した。参加者の一部は京都連盟の案内で金毘羅山のゲレンデ巡りとなった。

【山行報告】

ステップアップ比良 滝谷ノ頭(黒谷～畑周回尾根ルート)

【日時】2022年 11月 19日(土)晴れ 参加者 8名(CL山友会 T)

【行程】黒谷・しゃくなげ運動公園 8:30…P448,9:25…鞍部 10:00…滝谷ノ頭 11:10(昼) 11:40…
ボボフダ峠 11:50…荒谷峠 12:00…横谷峠 12:20…畑バス停 13:10

黒谷のバス停からすぐのしゃくなげ公園スタート、獣除けのゲートを過ぎて尾根に取りつく。しょっぱなから急登。リーダーから「右側切れ落ちてるから注意！」の声もかかる。370mまで登れば歩きやすい尾根道・・と思いきや藪こぎ・・。わしわしと進んで抜けて一息つけたP448 は進路が北西に変わる注意ポイントでした。ようやく彩あざやかな木々に目が行くゆとりもできてP473。小休憩？と思いきや、そのまま進んで鞍部におり左へ、その先で右へ・・なぜ右？(東西南北混乱)。P473 から西方向の鞍部に降りたならばそのまま目指す尾根方向なのですが斜面が急なので北側斜面を下りて回り込んだのでした。事前に地図が配られていたのに、頭の中でたどることができずにいました。目指す尾根が確信できたところで休憩。廃屋となった作業小屋がポツン。山奥に分け入った気分でしたが、畑の集落から谷沿いをつめればあっという間かも。さて、尾根歩きはまず倒木帯から始まり、ほどなく本日二度目の急登。ストックをついたり手をついたりもがいたりしながら登り(同じ斜面と思えないほど軽快に登っていく方も・・羨ましい)100mほど登った場所で一息。再び斜面に張り付くように 130mを登って滝谷ノ頭、比良比叡トレイル道と合流。登山・トレランの人と出会うようになりました。昼食後は行程後半、ボボフダ・アラ谷の道標二つ超え横谷峠。後は下るのみ。あっという間にバス停に到着。お天気にも恵まれて、とても魅力的な周回でした。「同じコースを各自がリーダーとなって歩いてこそこの〈ステップアップ比良〉です」とTリーダーから締めの一語。肝に銘じます。

※黒谷までは湖西線、近江高島・7:23着 7時27発畑行きバスを利用(黒谷着7時57分)料金は現金のみの支払い220円です。このバスを逃すと次は9時までありません。帰りは畑13時57分発のバスに乗車。

記録K



放射線量測定山行報告

日時：2022年11月26日（土）8時40分～16時50分

山行コース：マキノスキー場→栗柄越→赤坂山→栗柄越→P841ピーク横→寒風峠→西山林道分岐
→マキノスキー場

測定地点：①マキノスキー場②堰堤下③送電線鉄塔横④栗柄越⑤赤坂山⑥P841手前

鞍部⑦寒風峠⑧西山林道への分岐

参加者：田中武範（理事） 宮内眞子（理事長）

当日は、雲はあるものの雨の心配なく且つ温かく、歩きだすと汗をかく。スキー場の草原は自動車での家族ずれ等のキャンプ客が沢山来ていた。昨年測定をされた担当理事（中島さん）の都合がつかなかったので、昨年の測定記録表に記載されている具体的な測定場所等を頼りに測定地に行き測定する。堀場製作所のRadiという測定器である。「スイッチON」して1分間経過後1分間毎に計5回計測（数値は10秒毎に変わる）して平均を計測値とする。

上記記載のコースを辿り8地点測定した。最後の地点で何を測定しているのか聞く登山者もいたが、少しは興味を持って貰えたのかもと思った。たぶん若狭の原発（美浜、大飯、高浜）からの送電線がこの山域をとおり湖北方面に伸びている。その鉄塔でも高さ数十メートル程度なので鉄塔の資材はヘリコプターで運搬され工事用道路は建設されていない。今問題になっている“メガ風力発電の構築物は、もっと山の環境や景観に影響を及ぼすだろうな”などと思いながら下山した。マキノスキー場では朝よりもっと自動車がとまり家族客などで賑やかであった。

【放射線（空間線量率）測定について（参考）】

放射線測定とは何を測定し、測定した数値は何を意味するのか調べてみた。

放射線は、原子核の種類によって①アルファ線、②ベータ線、③ガンマ線をだすのか異なるが、

①アルファ線：ラドン（天然）ウラン238（天然）プルトニウム239（人工）プルトニウム240（人工）

②ベータ線：トリチウム（天然、人工）鉛214、ビスマス214（天然）、ストロンチウム90（人工）、ヨウ素131（ガンマ線もだす）

③ガンマ線：カリウム40（天然）…ベータ線もだし、空間線量率の主な要因の一つ
鉛214（天然）ビスマス214（天然）セシウム137（人工）コバルト60（人工）

であるが、通常空間線量率測定（放射線量測定）というのはガンマ線を測定している。アルファ線やベータ線測定は測定するのが大変煩雑であり、ガンマ線を測定することで人工的な放射線（極端な事例が原発事故）影響も判断できる。

それでは測定しているのは放射線の何を表しているかという「測定した地点での人が受ける被曝線量」であり、その単位をシーベルト（Sv）と表す。

1シーベルト（Sv）=1,000ミリシーベルト（mSv）=1,000,000マイクロシーベルト（ μ Sv）である。

今回の測定器では単位は μ Sv/hである。これは1時間あたりの被曝量をマイクロシーベルトの単位で表すということである。

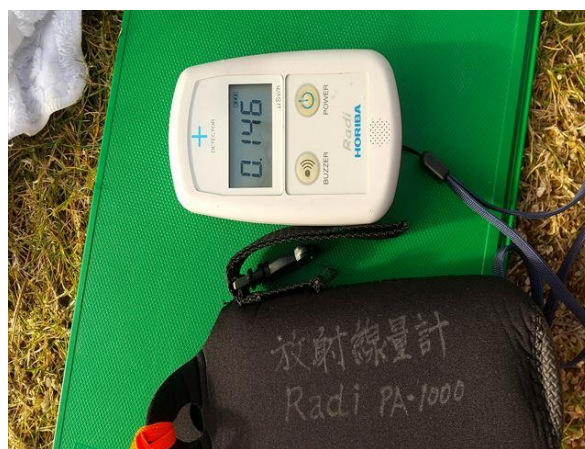
今回の測定での最高値は0.229、最低値は0.035であった。

最高値を年間被曝量に換算すると。 $0.229 \times 24 \text{ h} \times 365 \text{ d} = 2006.04 \mu \text{ Sv} \doteq 2 \text{ mSv}$

これは一人あたりの自然放射線量（日本2.1mSv/年、世界2.4mSv/年）とほぼ同じであるが、原子力や放射線を取り扱う作業者の線量限定：50mSv/年、CT検査一回あたり50mSv胃のX線検査一回あたり数mSvの被曝量である。また、原子力規制委員会公表値は、マキノ（12月5日9時30分）：0.048 μ Sv/hであった。当然のことながら、我々の測定値は妥当なものであり、且つ原発に近い赤坂山付近も放射能汚染はないと考えてよと思われる。

（新潟県放射線監視センター、ICRP（国際放射線防護委員会）データ、環境省の情報より記載した。）

報告者 理事：田中 武範



登山道の放射線汚染マップ作成のための測定記録票

日本勤労者山岳連盟・滋賀県連

測定山域名 滋賀 県 赤坂山(マキノ)		マキノスキー場～粟柄越～赤坂山～粟柄越～寒風～マキノスキー場		
測定年月日 2022年11月26日(土)(時間帯 8 :55 ~ 15 : 33 の間)			①晴 ②雨 ③曇 ④雪	
測定者氏名 連盟・会名 滋賀県連		田中 武範	記録者氏名 連盟・会名滋賀県連 宮内 眞子	
測定参加者名 () () () () () () () ()				
測定機種 ①HORIBA PA-1000 Radi ②				
	標 高/ 測定時間	北緯/東経	測定結果(μSv/h)	測定した場所はどのようなところか (休憩場所・沢や水の流れの近く・落ち葉が堆積しているなど具体的に)
1	標高m 196	北緯 35° 49' 62	地表 1m 0.08	マキノスキー場 草地
	測定時間 15:33	東経136° 02' 97		
2	標高m 535	北緯 35° 51' 26	地表 1m 0.229	堰堤下 岩、小石
	測定時間 10:30	東経136° 02' 86		
3	標高m 739	北緯 35° 51' 59"	地表 1m 0.177	送電線鉄塔横 西洋芝
	測定時間 11:10	東経136° 02' 40"		
4	標高m 770	北緯 35° 51' 64	地表 1m 0.119	粟柄越 西洋芝
	測定時間 11:26	東経136° 02' 24		
5	標高m 823.6	北緯 35° 52' 00	地表 1m 0.13	赤坂山 砂
	測定時間 11:45	東経136° 02' 33		
6	標高m 777	北緯 35° 51' 23	地表 1m 0.048	P841手前鞍部 土
	測定時間 12:50	東経136° 01' 68		
7	標高m 853.8	北緯 35° 50' 38	地表 1m 0.035	寒風峠 土、小石
	測定時間 13:35	東経136° 01' 24		
8	標高m 428	北緯 35° 49' 61	地表 1m 0.086	西山林道への分岐 小石、雑草
	測定時間 14:58	東経136° 02' 03		
9	標高m	北緯 ° ' "	地表 1m	
	測定時間	東経 ° ' "		
10	標高m	北緯 ° ' "	地表 1m	
	測定時間	東経 ° ' "		
11	標高m	北緯 ° ' "	地表 1m	
	測定時間	東経 ° ' "		

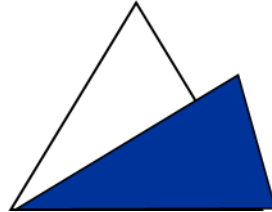
行事予定

月	日	県連・全国行事	月	日	各会の行事	会名
				1	初日の出山行(権現山)	雪稜
				3	東山トレイル	岳友
	7-9	パウダーフェス(スキー協行事妙高池の平)(スキーネット)		3	新春登山(武奈ヶ岳)	OT
				7~8	金峰山	岳友
	11	理事会(ZOOM併用)		8	湖北 横山	ちご
1				8	新春山行(武奈ヶ岳)	雪稜
	14	初級登山教室実技 雪山ハイク入門(大谷山)		15	才例会「明王の禿～赤坂山」	山友
				22	ハ例会「大比叡」	山友
	20-25	北海道ルスツ・ニセコ(スキーネット)		22	探鳥会	岳友
	25	理事会(ZOOM併用)		22	交流山行「愛宕山」	ちご
	27-29	スノーフェスタ(スキー協 平湯温泉)(スキーネット)				
				28	奥島山	OT
	3-5	佐渡山山スキー・妙高ゲレンデスキー(スキーネット)				
				4~5	北八ヶ岳	岳友
				5	綿向山	ちご
	15	代表者会議(明日都浜大津)		5	才例会「如意が岳～宇佐山」	山友
2				18~19	野伏岳	岳友
	18-19	氷ノ山山スキー(スキー協行事 スキーネット)		19	第44回定期総会	雪稜
				26	マンダラ山	ちご
	5	第47回定期総会(大津ふれあいプラザ) 午前中 講習会		4	取立山	岳友
	9-14	旭岳 十勝岳 北海道山スキー(スキーネット)		12	梅 お花見	ちご
3				12	明神岳	岳友
	24-26	妙高ゲレンデスキー(スキーネット)				
				26	京都北山 沢山	ちご

会名略号 山友:滋賀山友会、岳友:湖南岳友会、雪稜:比良雪稜会、ちご:ちごゆり山歩会

シャク:シャクナゲ溯行クラブ、OT:山の会オフトレイル

スキーネット:山スキーネット滋賀、CSS:クライミング研究会滋賀 初級:初級登山教室



2023年2月号の原稿は、1月15日〆切です。
2月号のリレーエッセイ、写真の担当は”山の会オフトレイル”です。
原稿の投稿先は 宮内 m-miyauchi@ares.eonet.ne.jp
藤野 kawahaakebono@gmail.com
菅 nokomama.2016@gmail.com
宮内と両名にお願いします。

『県連ニュース2023年1月 NO.546号』

発行日：2022年12月20日

滋賀県勤労者山岳連盟

TEL 080-4971-6231

〒520-0047

Email shigarosan@gmail.com

大津市浜大津 4-1-1 明日都浜大津 1F
大津市市民活動センタースモールオフィス内
メールボックス NO13

ゆうちょ銀行(店名418)

普通 0239956

<http://shigarousan.jimdo.com/>

発行責任者 宮内 眞子

編集委員 藤野 健太郎 菅 泉